

魅力探検 緑の山へ

⑤

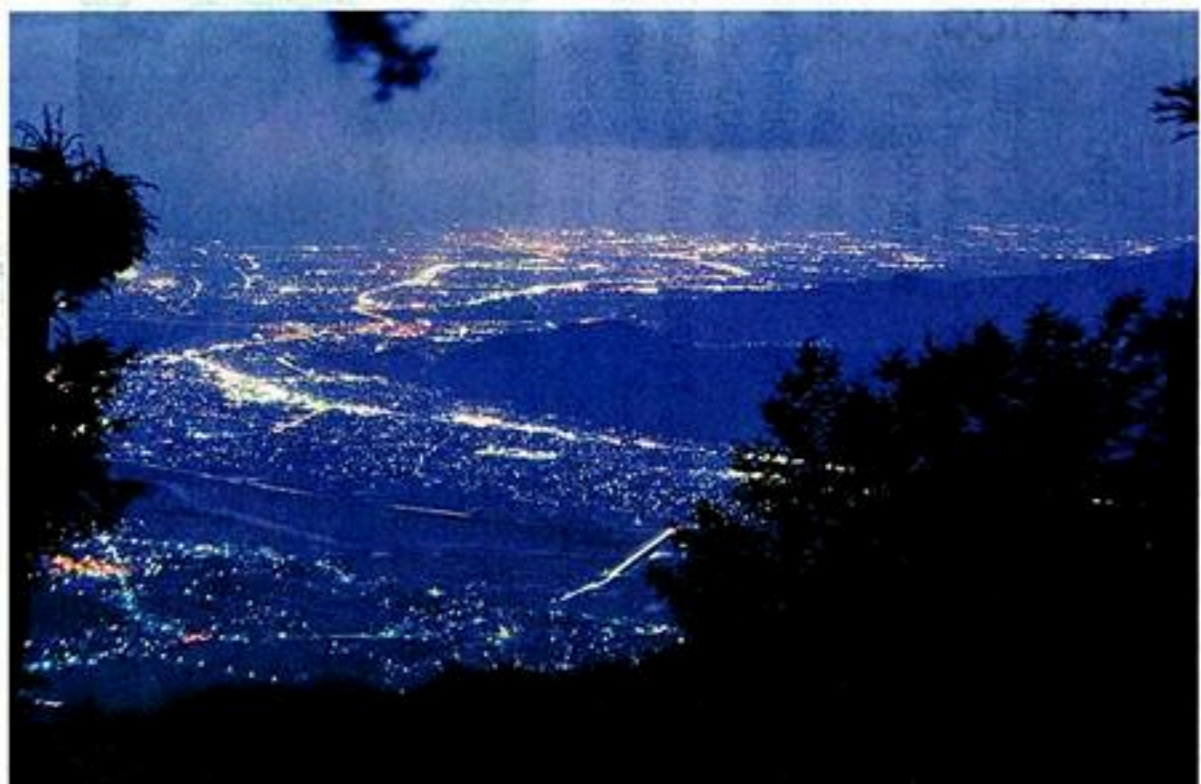


冠着山の山頂に着いた更級人「風月の会」の会員ら

「わが心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て」
905年成立の勅撰和歌集「古今和歌集」に載っている作者不詳の1首。千年以上前から冠着山（別名・姨捨山、1252m）は月の名所だった。その後も江戸前期の松尾芭蕉ら多くの俳人が訪れては、月の情緒を詠んだ。
満月から3日後の7月23日夕、千曲市と筑北村にまたがる

千曲市「冠着山」(1252m)

月・夜景・蛍…あふれる光



冠着山の山頂から見下ろした善光寺平の夜景



冠着山に登った。
筑北村側の登山口から休憩を挟んで30分ほど歩き、午後6時40分すぎに頂上に到着。眼下に

広がる善光寺平は徐々に闇に包まれ、ぼつ、ぼつと光がともる。家々から漏れる明かり、車のヘッドランプ、街灯。到着から1

時間ほどたつと、見事な夜景が現れた。空には明るい月が浮かんでいた。
午後8時ごろ、山頂の木立の中に小さな明かりがともった。ちかちかとイルミネーションのようについては消える。「いた」「きれい」。山頂にいた人たちが次々に声を上げた。ヒメボタルだ。

この日は、千曲市の住民グループ「更級人「風月の会」が開いたヒメボタルの観察会。今年のは発生時期が例年より早く数は少なかったが、参加した20人余りが幻想的な風景を楽しんだ。同行した信州大の藤山静雄・特任教授（生態学）は頂上で、
月、夜景、蛍…。光にあふれる山を、風月の会はさらにPRしていくつもりだ。
(奈良 つとむ)

冠着山 メインの登山口は筑北村側に一つ、千曲市側に二つある。市観光課などによると、村側からは片道30分ほど、市側からは片道1～2時間ほどかかる。どの登山口も駐車場が整備されており、登りやすいという。千曲市側の二つは、同市羽尾の「坊城平いこいの森」の駐車場脇と、御籠（みろく）地区にある。1時間ほどで登れる坊城平いこいの森側のコースは支道に「ぼこだき岩」がある。2時間ほどかかる御籠側のコースは道中で久露（くろ）滝が楽しめる。山頂には冠着神社の本殿があり、例年7月中旬から下旬にヒメボタルが舞うという。